

一般の皆様へ

梅毒と先天梅毒（母子感染）が増えています！

最近リスクのある性行動があった場合は梅毒抗体検査を受けてください

日本産科婦人科学会
理事長 加藤聖子
感染対策連携委員会 委員長 川名 敬

- 2013年以降、梅毒に感染する人が急激に増加し続けています。現在、50年に一度の梅毒の大流行期に入っています（前回の流行は1960年代です）（1）。
- 国から発表された2023年の速報値（2024年1月12日公表）では、2023年の梅毒感染者の報告数は14,906人となり、報告義務が定められた1999年以来、過去最高となりました（1999～2012年までは年間200人程度でしたので、約75倍です）（図1）
- 今回の大流行の特徴は、男性感染者が10-60歳であるのに対して、女性感染者は10-30歳に集中していることです。また2023年の報告数は、2022年と比べ、大都市部で横ばいになってきたのに対して、地方都市で1.5～2倍に増えているところもあります。大都市の繁華街だけの問題ではなくなってきました。
- 女性感染者の増加に伴い、梅毒に感染している妊婦も急増しています。女性感染者の年齢は、妊娠を考えている女性の年齢と一致しています。日本産婦人科医会の調べでは、梅毒に感染している妊婦の数が、2022年には2016年調査時の約5倍に増加していました（2）。
- 梅毒に感染していることを気づかずに妊娠すると、妊婦の子宮内で胎児が梅毒に感染する「先天（性）梅毒（以下、先天梅毒）」が発生するリスクがあります（2，3）。先天梅毒は2012年まで全国で、年間10例以下でしたが、2023年には第3四半期までで既に32例と増加しています（図2）。未治療の女性が妊娠することで更に先天梅毒が増加する恐れがあります。
- 不特定の相手との性交渉や、コンドームを着用しない等のリスクのある性行動があった場合は梅毒抗体検査を受けることをお奨めします。日本全国で、梅毒は身近に迫っ

ており、他人事ではなくなっています。特に妊娠を考えているカップルは、梅毒に注意してください。

- 以下の【解説】に示した症状に心当たりのある方は、梅毒抗体検査を受けてください。以下の症状は、無治療でも消えますが、症状がなくなっても治ったわけではなく、性交渉の相手に感染させてしまいます。
- 梅毒は、薬を内服または1~3回注射するだけで完治できます。決して怖い病気ではありません。検査をうけて治療を使用することによってご自身の為にもなり、他人への感染も避けられます。
- 自分、パートナーそして生まれてくる赤ちゃんを梅毒の感染から守るために、妊娠前に梅毒に感染していないことが重要です。もし女性が梅毒に感染してしまっても、妊娠前に適切な治療を受ければ、その後の妊娠で先天梅毒の心配はありません。
- 妊娠初期検査で梅毒抗体検査が陰性であっても、妊娠中の性交渉で梅毒に感染することがあります(2)。妊娠中に、男性も含め、リスクのある性行動があった場合は、産科の主治医の先生にお話しいただき、あらためて梅毒抗体検査を受けてください。
- 妊娠を考えているカップルで、最近リスクのある性行動があった場合は、妊娠する前に梅毒抗体検査を受けることをご検討いただき、お近くの産婦人科へお問い合わせください。

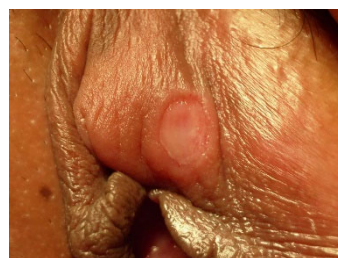
【解説】

梅毒は、梅毒トレポネーマという細菌が性的接触にすることによって感染します。性行為時に、性器と性器、性器と肛門（アナルセックス）、性器と口（オーラルセックス）など粘膜や皮膚が梅毒の病変部位と直接接触することで感染します。

① 発症時期にわけた症状

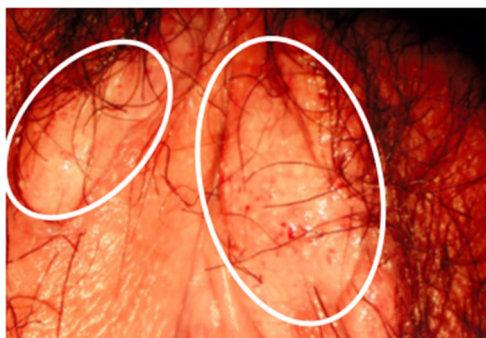
1) 梅毒第1期：

感染から通常1か月前後（遅くとも3か月以内）は最初に感染した場所（口唇、口腔咽頭粘膜、陰部周辺、肛門周辺など）にしこり、びらん、潰瘍などの病変ができます。鼠径部のリンパ節も腫れますが、発熱はありません。初期硬結、**硬性下疳（右写真）**と呼ばれるものです。この時期は、性交渉の相手に感染させます。



2) 梅毒第2期：

感染からおおむね 1～3 か月にみられる体内に散布された梅毒トレポネーマによる二次的な症状です。皮膚に**紅斑、丘疹、脱毛斑、しこり**などがみられます。バラ疹（右



写真：ドクター尾上のホームページより引用)、梅毒疹、扁平コンジローマ（左

写真）と呼ばれるものです。この時期は、性交渉の相手に感染させます。



3) 第3期梅毒

感染から数年～数十年を経て、**心血管症状、ゴム腫、進行麻痺、脊髄癆**など、臓器が梅毒で侵された症状が出現します。

② 発症時期に関係ない症状

1) 神経梅毒

精神神経症状（精神症状や認知症のような症状）が出現します。梅毒の1～3期のどこでも発症しうるものです。

2) 先天梅毒

梅毒に感染しているのに未治療のまま妊娠すると、子宮内の胎児に梅毒が感染することがあります（梅毒の母子感染症）。梅毒は、妊娠週数に関わらず子宮内で胎児に感染し、**流産、死産、先天異常**を引き起こすことがあります。感染から1年以上経つと、性交渉の相手にうつすことはありませんが、母子感染は感染から1年以上経っている場合でもおこります。**妊婦中に梅毒の治療はできますが、妊婦が治癒しても、胎児への母子感染は完全には予防できません（2，3）**。母子感染した児では、流産、死産にならなくても、先天異常（難聴、肝脾腫、角膜炎、骨異常、心奇形、歯の異常など）や精神発達遅延などを持った状態で生まれてくることがあります。これを完全に治療することは難しいです。

図 1. 梅毒患者の年次推移

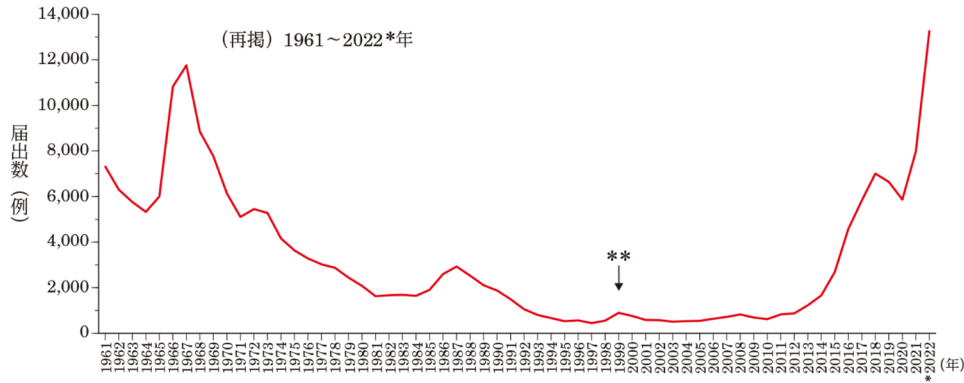
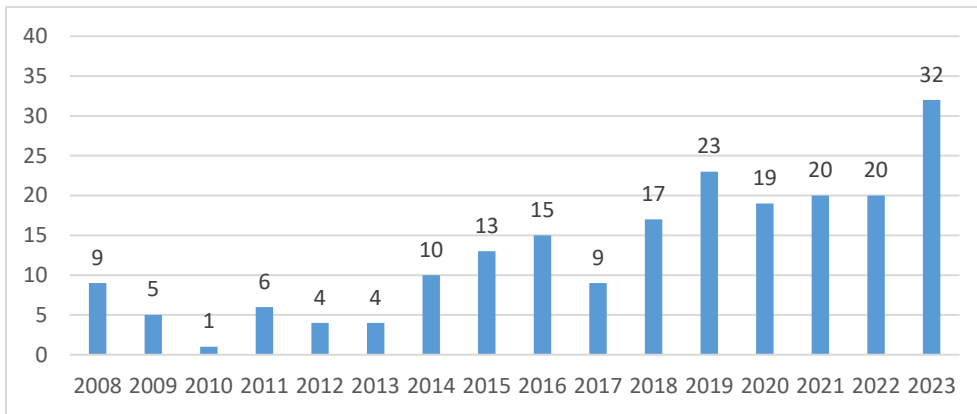


図 2. 先天梅毒児の年次推移 (全数報告 0 歳時の梅毒報告数)



* 2023 年は第 3 四半期までの数字

参考文献

- (1) 国立感染症研究所、感染症疫学センター 梅毒 2023 年現在 (IASR Vol. 44 p187-189: 2023 年 12 月号)、IASR 44(12), 2023 【特集】梅毒 2023 年現在 (niid.go.jp)
- (2) 妊娠中の梅毒感染症 (2023 年版) に関する実態調査結果の報告、公益社団法人日本産婦人科医会 会長 石渡 勇、担当幹事 早田 英二郎、
<https://www.jaog.or.jp/about/project/document/%e5%a6%8a%e5%a8%a0%e4%b8%ad%e3%81%ae%e6%a2%85%e6%af%92%e6%84%9f%e6%9f%93%e7%97%87%ef%bc%882023%e5%b9%b4%e7%89%88%ef%bc%89%e3%81%ab%e9%96%a2%e3%81%99%e3%82%8b%e5%ae%9f%e6%85%8b%e8%aa%bf%e6%9f%bb/>

- (3) Nishijima T, Kawana K, Fukasawa I, Ishikawa N, Taylor MM, Mikamo H, Kato K, Kitawaki J, Fujii T and the Women's Health Care Committee, the Japan Society of Obstetrics and Gynecology, Effectiveness and tolerability of oral amoxicillin or ampicillin as alternative regimen for pregnant women with active syphilis: a nationwide multicenter study in Japan, *Emerging Infect Dis*, 26: 1192-1200, 2020